

# NEWSLETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

● 創造的実行力とハーモニーの礎 ..... 1	● 参加者から寄せられた声 ..... 4
● 基調講演「明日からの授業実践のために」報告 ..... 2	● 合宿スナップ写真 ..... 5
● 実践発表「こんな授業はおもしろい！」報告 ..... 3	● 今後の勉強会予定 ..... 6
● ディスカッション「みんなで知恵を出し合おう！授業の悩み」報告 ..... 3	● 教員免許状更新講習1／授業デザインスキルアップ演習 ..... 6

## 創造的実行力とハーモニーの礎 —— 「英語の教え方教室」合宿 in 近江八幡

中井 弘一

これまで3年間の21回、学内で行ってきた勉強会「英語の教え方教室」を本学キャンパスから離れ、滋賀県の“へその地”である近江八幡において「合宿」スタイルで、この5月11日(土)・12日(日)に行った。当日、やむを得ない事情で2名欠席された方もおられたが、最終的に27名の参加状況であった。初の試みとして予想を上回る参加者を得たことは、運営幹事の中西、二森先生の尽力のおかげである。お礼を述べたい。また、参加いただいた皆様のご協力を得て本合宿勉強会が意味のある集いになったことは喜ばしい限りである。

さて、今回の勉強会を振り返ると、二つのテーマを基調として話し合ったと思われる。一つ目のテーマは「創造的実行力」である。私自身、この「創造的実行力」を英語授業哲学の基本理念として、どう教員は授業に臨むべきかを話した。そのあとに話された松川先生の実践報告も、「創造的実行力」に基づいた内容であった。二人の講演・発表の内容は次ページ以降にまとめるとして、この「創造的実行力」とはどういうもので、どう身につけるべきものであろうか。

【創造】とは、新しいものを初めて作り出すこと、【実行力】とは、実際にそのことを行える能力、計画などを実行に移す力で、行動力を伴うものである。「創造的実行力」とは、急激に変化するグローバル化社会に必要な生きる力であり、「問題を発見し、ビジョンを持って、めざすべきゴールを定め、ゴールに向かって邁進する」問題解決・課題解決に必要な力である。英語教育における「創造的実行力」とは、教材に対し「何が問題か？何を学ばせるべきか？」を明らかにすることがその基本である。自分の知識、経験、思考・想像力を総動員し、教材を多角的に読み取る。あれやこれやと教え込むことでなく、その教材に何を読み取るか、まず「めざすべきゴール」を明確にすることであろう。また、一人の考えでなく、他の人の考えなどと対比させ、自分が思いつかなかったことに気付かせる、そして互いに批判する。ことばが伝える情況やイメージを生徒がしっかりとつかめるように言語活動を活性化させ、生徒の学びがその教材の響きと共鳴できるように工夫し実践することであろう。これらを実践するには、Wallas Grahamの創造の4段階である(i) preparation, (ii) incubation, (iii) illumination, (iv) verificationのプロセスが必要で、すなわち、ハテ？と思う観察力・注意力、旺盛な好奇心と探究欲求、豊富な知識と経験による「準備の段階」、

課題に対する集中心と粘り強い態度、情報をうまく整理・分類しておく能力、思い切った気分転換による「温めの段階」、型にはまらぬ柔軟な思考、豊かなアイデアとイメージ、独創的な判断などによる「ひらめきの段階」、分析力と総合力、再構成する能力、冷静な評価能力などによる「検証の段階」を通して産みだしていくことになる。

もう一つテーマとなったものは、同僚性であった。同じ学年の担当者であっても協働して教材開発するには相手の壁が高く、授業の進め方を共有することが難しいという意見が参加者の先生から寄せられた。補助プリント・ワークシートの共有フォルダーボックスを設置して誰でも気軽に活用できるように工夫しているという報告もあった。教員一人ずつの考え方や指導方法は年を経る毎に固定化する傾向がある。一家言を持つことは、必ずしも悪いことでなく経験に基づいた教育理念・信念でもある。むしろ、金太郎飴のようにどの先生も同じ顔で同じ教材を使って授業を行うというのは、教育の管理主義に陥るかもしれない。それゆえ、和音が美しいメロディを奏できるように、音調が異なる人がともに重なり合って音を紡いでいくことが大切ではないか。共通の曲を混声合唱で演奏するのである。ただ、ハーモニーが美しく響くためには、音程が調和していなければならない。やみくもに演奏するのでなく、教材のねらい、進度予定、活動の効果、プリント配付などそれぞれの指導やワークシートなどに対する principles を明確にすることである。それらが明確であれば音を合わせるができる。共有するということは、ハーモニーの礎を築くことであり、同化するのではなく調和を持つことである。相手を納得させる、いや共鳴させる principles をもって話し合っていくことが望まれるであろう。



報告

大阪女学院大学 教員養成センター

平成 25 年 5 月 11 日(土)・12 日(日)

「英語の教え方教室」合宿 in 近江八幡

於：グリーンホテル Yes 近江八幡

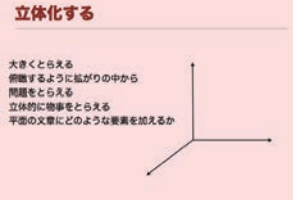
- ・明日からの授業実践のために — 英語授業の哲学 —
- ・こんな授業は面白い!
- ・みんなで知恵を出し合おう! 授業の悩み

中井 弘一 (大阪女学院大学)  
 松川 慈 (奈良県立高取国際高校)  
 参加者グループ討論



■ 開会挨拶 中西 勝弘 (滋賀県立八幡高校)

合宿運営幹事長の中西先生から開会の挨拶。2 府 4 県から大勢の参加者を得たことに謝辞を述べられて、勉強会が始まった。



■ 基調講演 「明日からの授業実践のために — 英語授業の哲学 —」

毎月大阪女学院大学で開かれている「英語の教え方教室」に参加されている先生方の有志がこの合宿が開催された。毎回の勉強会で我々発表者のフォローをしてくださり、残ったわずかな時間で、何百枚ものスライドを通し話して下さる中井先生が 90 分の基調講演をしてくださいました。その講演をまとめさせていただけることは非常に光栄で、一人でも多くの読者に、この講演の中身を味わっていただきたいと思い、合宿から帰宅してタイピングしている。講演を聴きたくても仕事の関係で不参加だった先生方にも読んでいただけたらと思い、38 ページのレジュメの内容を簡潔にまとめてみる。



この合宿は近畿圏のほぼ全府県(滋賀・兵庫・京都・大阪・奈良・和歌山)から 27 名の先生方が参加し、中井先生の講演で、心が震え、涙し、生徒のために一緒に明日からがんばろうと思った先生方が多いに違いない。少なくとも筆者もその一人である。この講演を二つのキーワード「創造的実行力」と「生徒のために」で報告する。

キーワード2: 「生徒のために」

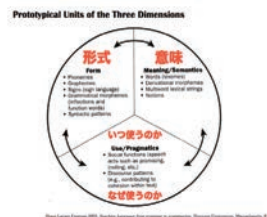
この言葉は夜の懇談会でのキーワードでもあるのだが(参加者のみぞ知る)、全ての授業は生徒のために我々教員は教材研究をする。予習ではなく、研究をするのである。教科書に載っている「メッセージ」「地図・写真」「語法」「表現」「語彙」「構文」「発展的思考」「活用」等をどうくみ取り、伝えていくのか。それが、創造的実行力なのであると中井先生は強調する。その力を行使するひとつの方法が、「立体化する」ことである。文字でいっばいの平面テキストからテキストを立体化するのに、音声や挿絵を使うことはもちろん、教師としての教材研究に次の7ステップが必要とされる。

- ①テキストをまず直接に自分の知識、経験、思考・想像力を投入、反映させて多角的に読み取る。
  - ②テキストの表面を立体化すること。言葉をイメージと状況に還元する。
  - ③これを教えなければならない、ではなく、そのテキストに自分は何を読み取るのか。
  - ④読みの深淺、共鳴。それが何を教えるのか決める。
  - ⑤自分の読みと他者の読みを対比し、批判し、自分の意見を修正し、取捨選択する。
  - ⑥立体化され、活性化され、鼓動しているテキストを、生徒にいかにか共鳴させるのか考える。
  - ⑦教室の雰囲気・生徒の反応に敏感である。
- このような立体化を目指し、サマリーを作成したり、表の作成を通し、実践されたことを紹介された。

言語習得も過程も、自転車理論で紹介された。Input → Intake → output の流れで習得はされるのだが、Intake の活動をメカニカル・ドリルだけ行うのではいけないと強調する。そこには意味がないといけない。自転車でもそうである。乗りたい、そして乗れるようになったら、遠くへ行きたい、という動機が存在する。英語学習でも同じで、内発的動機と自信をつけていかなければならない。前者は「英語は面白い」という実感を生徒にどう伝えるか。英語特有の表現や音声、そして構造。後者は他者とのやりとりの中で生まれると説く。参加者の中高の教員、学生はここで大きくうなずいた。なぜ英語が好きなのか、なぜ英語教員をめざすことになったのか。中井先生の言葉で改めて会場が共鳴した。

英語とは何か。コミュニケーションとは何か。言語とは何か。一言では言い表すことが難しい内容を、具体的に示していただいた。日本語と英語の距離の遠さを、「言語とは文化」という考えで説明された。日本語、つまり日本文化は高文脈文化; 状況言語であり、英語は低文脈文化; 言葉なのである。津軽海峡がなぜヒットしたのか。外国映画でなぜ I love you, honey がよく聞かれるのか、答えはそこにあるだろう。そういった違いがある点を認識したうえで、教員は英語指導、文法指導に留意しなければいけない。

5 文型、受動態、to 不定詞 ~ ing の形を単に教えるだけはいけない。筆者も大学時代に Lasen-freeman の Gramming という考え方に共感をした。文法指



キーワード1: 「創造的実行力」

中井流英語指導極意伝として、

- ①教師として信念をもつ
- ②ものの見方を広げる
- ③夢を語る
- ④心を開く
- ⑤英語学習の目標・景色を見せる
- ⑥創造する精神をもつ



の6つが紹介された。90分の話の中で、何度も出てきたことばが「創造的実行力」。とても一言では説明するのは難しいので、実に多くの実践例を紹介して下さった。中井先生は、この「創造的実行力」こそが「教師の全て」と言う。

創造性の定義としてヴァン・ファンジェは

- ①創造者とは、既存の要素から新しい組み合わせを達成する人である
- ②創造とは、この新しい組み合わせである。
- ③創造することは、既存の要素を新しく組み合わせることにすぎない。と言っている。Easier said than done という内容であるが、我々に、中井先生が 1975 年から実践されてきたことをやって見せてくださったので、参加者としてはどうということなのか考えることができた。

具体的には、

- ①発音指導の方法: Listen and repeat, 良く似た子音を何度も聞かせ、瞬間的に英単語を言い当てる。
- ②楽しく単語を学ぶ方法: クロスワード
- ③和文英訳 1000 題: 中学校3年間の本文を全て和訳し、それをもとに英文訳を作らせる。
- ④和訳並べ替え方式・穴埋め補充方式: 和訳を一文ずつ並べ、論理的に正しい順に並べる。

等、実に多くの実践例が紹介され、参加者一同が「おお」という雰囲気だった。次に、教科書のメッセージをどのように生徒のために解釈し、生徒たち伝えていくのか、教師の「教材研究」の視点をたくさん教えていただいた。



導は①形と②意味と③使用場面が必要なのである。コミュニケーションを語る上で、①と②だけを知っていても仕方ない。③の使用場面をしっかりと教え、使えるようにするのが我々の仕事である。覚える文法→考える文法→使う文法の流れの中で、最後に英語授業を英語でできるのである。多くの参加者の疑問がここで解けた。

最後に、本講演のキーワードを思い出してほしい。「創造的実行力」と「生徒のため」である。まとめとして、創造活動の流れを紹介する。①準備段階→②あなたため段階→③ひらめき段階→④検証の段階→⑤提示の段階である。これだけを読んでも、すぐにはできないことは誰も納得してもらえないだろう。だからこそ、日々考え、準備し、ひらめきを大切にしつつ、我々は実践をしていくのであろう。90分を超える、もっともっと聞きたい中井先生のお話を2ページでは到底説明しきれず、質問を持たれる読者も多いと察する。だからこそ問い続けてほしい。Are you an inquiry teacher?

報告：戸田 行彦（滋賀県立石山高等学校）

■ 実践発表・討論 「こんな授業は面白い！」

中学校と高等学校の両校種の勤務経験をされている松川先生からは、具体的な教材の提示や、先生自身による英語の歌等のデモンストレーションを通して、たいへん分かりやすく、また、生徒や教師の「創造的実行力」に直接つながる示唆に富んだ内容の発表をいただいた。



まず、中学校について、「英語の基礎の定着」と「四技能の総合的な指導が必要な実技教科として英語」という柱でお話された。

- 具体的提案として、
- ①リズムマシーンを使用した授業で英語のリズムを生徒に体得させ、日本語との違いに気づかせる指導
- ②Do動詞の「おぼえ歌」を「ドラえもんバージョン」で歌い、基礎的内容を早期に楽しく定着させる取り組み
- ③最終的に日本語を介在させなくてもイメージすることが可能な音読指導
- ④見やすい（つやのない）ラミネートをしたピクチャーカード（人間の表情等を表している）を使用し、視覚に訴えた基礎的な英文のスピード作成

などを紹介された。生徒の学力差にも対応可能な躍動感あふれる授業風景が目に見えそうな内容であった。

次に、高等学校については、新学習指導要領の導入に伴い、授業における英語を使用した効果的な言語活動について、あらゆる可能性について、日々工夫されておられる点をお話いただいた。

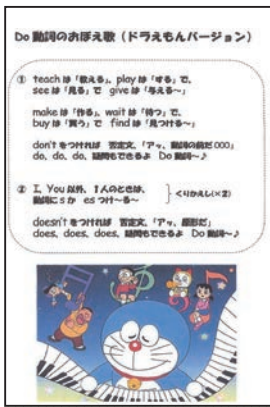
具体的実践例としては、今年度は英語科の担当教員が分担して3種類のワークシート（予習プリント・授業中に使用する活動ベースのプリント・復習プリント）を作成しているとのことであった。

語彙指導に関連した予習については、生徒は必ず紙辞書を用いて行い、授業では英英辞典を用いて、英語による表現の増強やより深い理解につながる指導に取り組んでおられる。

普段の授業では、生徒が主体的に学ぶ学習環境の構築に取り組みながら、英語力の向上を目指し、常に生徒の実態把握を怠らない姿勢などを大切にされている。授業内容についても、同じ言語活動を10分以上続けない等、生徒が飽きない進行に留意されているとのことであった。英語科の同僚性についても、教材や情報を適切にシェアされているのはもちろん、場面緘黙の生徒への時間をかけた丁寧な指導など、常に、対人コミュニケーションの温度を高くした状態で授業に取り組まれている。

会場からも、リズムマシンの使い方、忘れ物指導などについて、次々と質問が出された。

また、中井先生からのコメントとして、ワークシート作成の際は、必ず空所（空白）枠・部分を設け、notetakingやthinking、question cornerとして生徒自身が考える時間と場所を作っておくことが必要不可欠であることだと指摘された。これについては、例えば



英語教育を「線→平面→立体」の完成モデルで考えると、教員と生徒とのやりとり（interaction）の過程（線）で、新たな言語材料が“intake”となって記憶に定着（平面）し、さらに、生徒同士の英語によるinteractionやさらなる発展学習によって、生徒の本質的な新たな発見につなげていく（立体）ことが重要だということを確認できた。



末筆になるが、松川先生の貴重な発表に感謝の意を述べたい。先生からいただいた貴重な情報や資料に基づいて、我々も今後、生徒の関心が深まるような授業をめざしたいと思う。

報告：中西 勝弘（滋賀県立八幡高等学校）

■ グループ討論 「みんなで知恵を出し合おう！授業の悩み」

事前に寄せられていた主な疑問・悩みは、

- ・クラス内の学力差への対応、仮定法、関係代名詞、後置修飾など、生徒が理解しにくい文法事項の説明の仕方。学習を支えるバックグラウンドが欠けている生徒への対処。
  - ・コミュニケーション英語Ⅰについて、授業で英語を全く使わず、従来のGTMでやっている同僚とどのように計画を進めていけばよいか。複数で担当している場合、授業のやり方について、どれくらいの共通部分を教員間で保つべきか。評価評定の考え方をどう統一するか。
  - ・3年生対象の長文読解演習の授業を使用言語を英語にした場合コミュニケーションにするためには、どのように取り組めばいいのか？
- であった。これらをもとに、次の二つについて4グループに分けた2グループずつで話し合った。

その一つは、コミュニケーション英語Ⅰの指導で、論点を、英語の授業は英語で行うことを基本とするという方針の中、どんな言語活動を行っているのか、どのように同僚性を高めるのかの二点に絞って話し合ってもらった。参加者からは、基礎を復習しながら、英語を使うことを促していく、また、スピーキングだけでなく4技能トータルで活動を考えていくことが必要だという意見が出された。同僚性については、教材の共有化の方法などについて意見が出された。

もう一つは、高校3年生の授業で、問題演習だけにとどまらず言語活動を充実させるにはについて話し合ってもらった。参加者からは、入試で点を取る力を育成することと英語のスキルアップとの重なりはどのくらい密接なのかという意見が出された。また、入試英語長文と言語活動を対比した時、解決策は、wpmを意識する、推論質問をする、retellingの3つが出された。

最後に中井先生から、言語活動を英語で行う指導法を考えるといわゆるdirect methods、the audio-lingual method、the oral methodなどがあるが、それらは話し言葉を主に反復して習慣形成させるものである。そのことを考え、書き言葉の文字情報を理解し、話し言葉として図解による説明や英問英答をする必要がある。また、発音、シャドウイングなど基礎的な音声発話力の定着と思考力を鍛えてこそ、その後のディスカッションなどにつながる。一足飛びには無理がある。3年生の言語活動などについては、テキストのどこが究極の主張なのかを根拠を示させる主張タスクや、一つの質問で終わるのでなく相手の回答をもとに連鎖して尋ねる質問、ダブル・トリプルリーディング素材を用意し対比させたり予測せたりする、など読む指導を工夫するが必要である、といった助言を頂いた。

報告：二森 正人（兵庫県立尼崎小田高等学校）

■ 閉会挨拶 二森 正人（兵庫県立尼崎小田高校）

副運営幹事の二森先生から閉会の挨拶があり、勉強会は終了した。その後、別室に移動し、持ち寄った教材・資料をテーブルに並べて資料交換会を行った。



■ 資料交換 参加の先生、学生

英語プレゼンテーション、ことわざ、英語週末課題ワークシート、グループ学習の実践と課題、不規則変化活用表、英作文シートなどの資料を交換した。後日本学教員養成センター HP にアップする予定。

## ■ 参加者から寄せられた声

○ 中井先生、昨日、今日とありがとうございました。中心となって企画してくださった、中井先生や二森先生をはじめとした皆様のおかげで、大変有意義な週末を過ごすことができました。中井先生、現場で役立つ授業の知恵や教育哲学をご教授下さりありがとうございました。

今回の合宿のように現場を離れ、外から自分が取り組んでいることを他の先生方と話し合うことは、大切だと改めて実感しました。そこから、自分自身が成長できるのだと思います。また、普段お会いできない先生方とお話することで、たくさん刺激をもらうことができ、明日からの活力となりました。定期的集まることで、お互い刺激あい、皆で成長していきたいと思います。これからも、日本の英語教育に貢献していくべく、横や縦のつながりを大切にしていきたいです。ハイキング最高！

○ 松川先生に誘っていただいて、初めての参加でしたが、大変勉強になり、あっという間の時間でした。明日からの授業に生かせることから、長い期間自分で考える課題まで、さまざまなことを教えていただきました。また来週の大阪女学院大学での勉強会にも参加させていただきます。

今日はみなさんと近江八幡の観光でしたよね。青空のもと、いい時間をお過ごしだったと思います。奈良も今日は晴天です。リフレッシュして、明日からまたがんばれそうです。

○ 本日の「英語の教え方講座」では貴重なお話をありがとうございました。勉強会や懇親会では、今の私に必要なことをたくさん教えていただき、月曜日からまた頑張ろうという気持ちになりました。

教師一年目でまだまだ余裕はありませんが、そのような状態でも勉強会に参加したり、発表に挑戦したり(不安でいっぱいですが…)自己研鑽に努めようと思えました！

また是非とも中井先生の勉強会に参加させていただきたいです。

来週は予定が入りそうなのですが…もし参加できるようであればまたご連絡させていただきます。本日は誠にありがとうございました。今後ともご指導を仰ぐ機会が多々あるかと存じますが、何卒よろしく願いいたします。

○ 今日貴重な振り返りの機会をいただきありがとうございました。かなり緊張しましたが、やって良かったです。これからは高校での実践を積み上げて行きたいです。

中井先生にいただいたアドバイスも早速参考にさせていただきます。今夜の宴に参加できないのが残念です。明日、良い天気にも恵まれますように…また、是非今日の続きのお話を聞けることを楽しみにしています。今日は素敵な出会いと時間を本当にありがとうございました。

○ 中西先生、二森先生をはじめとして、この合宿の企画・運営をしていただいた全ての先生方・学生にお礼を申し上げます。ありがとうございました。簡単ですが、1日目の勉強会の感想を書きます。

基調講演として中井先生より「明日からの授業実践—英語授業の哲学—」を多くの資料とともに説明していただきました。

特に印象に残っている点が3つあります。

一つは「ものの見方を広げること」です。自分のものの見方を自分だけで広げようと思っても限界があります。今回の合宿を通して、他人の意見を聞き、自分の意見を交換することで、新たな視点を獲得できました。約30名の人間が集まり、意見を交換したり、教材を紹介し合ったりして、お互いがさまざまなところで、刺激し合い、影響を及ぼし合ったのではないのでしょうか？視点・視野・視座(これも中井先生から教わりました)が人それぞれ違うので、それがまたとても面白いと思います。

二つめは、「教材の読み込み」です。「テキストの表面を立体化すること。言葉をイメージと情況に還元すること。」「テキストを通して、その中に込められた気持ち、思いをどれだけみ取れるか」表面的な教材解釈では、生徒の心を揺さぶることはできません。自分がその教材と向かい合い、感動し、共感してはじめて、教材の本当の

価値や良さを生徒に伝えられるということを改めて自分自身につけられたような気がします。「この教材は何を伝えたいのか?」「この教材を通して生徒は何を学ぶのか?」

三つめは、先生のこの言葉です。「山に登る人は頂上に登った時の事を考えて登っている。英語の先生は英語の山に登る生徒が登り切った時の達成感、そして頂上から見える景色の美しさを伝えているか?」この言葉をしっかりとかみしめて、明日からの授業に臨みたいと思います。

次に、奈良県立高取国際高校の松川先生より「こんな授業は面白い!」というタイトルで実践発表をお聞きしました。中井先生も「She energized us very much.」とおっしゃっておられましたが、まさにその言葉のとおりで、生徒のハートをぎゅっとつかむ先生の魅力が発表を通して伝わってきました。

すごい!と思ったのは、「アイデアの豊富さ」と「創造的実行力」でした。イラストや絵をラミネートにすると、教材として長く使える。そしてラミネートも光沢の少ないものにとすると、黒板に貼っても、光を反射せず、教室のどの位置からでも見やすい。授業でリズムマシーンを使い、英語のリズムを生徒に体感させる。文法事項を替え歌にして、生徒に覚えやすくさせる。などなど本当にたくさんのアイデアを紹介していただきました。

自分が生徒なら授業をうけてみたいなあと思うような実践発表でした。松川先生の発表の途中で適宜質疑応答があり、発表後に、6人のグループに分かれて、討論をしました。コミュニケーション英語Iの指導に関して、同僚性や学力差、学習活動などについて意見を交換しました。

最後に先生方が持ち寄った教材や資料の交換会をし、会場の玄関先で全員の記念写真を撮りました。

昨日は1時半から5時半までの4時間が本当にあっという間に過ぎていき、大変充実した中身の濃い合宿になりました。本当にありがとうございました。

○ 今回私が感じたのは、教科書をどう立ち上げて、立体的に教えていくかということです。教科書を通りいっぺんに読んで訳しただけでは、生徒に残ることは本当にわずかでしょ。

教科書を通して訴えたいこと、それは著者の思いを代弁するだけではなく、教師自身の哲学を乗せて生徒に伝え、そして今度はそれを生徒の口から語らせるようにする。随分時間のかかるプロセスですが、それをしないことには明日につなげていくことにはならないのでしょう。

“教科書を教えるのではなく、教科書で教える”、以前中井先生に教えていただいた言葉です。教科書をきっかけとして、生徒を導き、深めていく作業はそのまま人間教育につながると思います。教師とは常に自分が試されている職業なのだという思いを新たにしました。いつもながら熱い熱い講義を授けてくださった中井先生、生徒のために心を砕き、真摯に授業を提供しようとする松川先生、お二人の背中が続いていけるように私も頑張っていこうと思いました。

今回初めての試みで、色々苦勞も多かったでしょうに、すばらしい会の運営をしてくださった中西先生、二森先生、そして多くの先生方、学生の皆さん、貴重な機会を与えていただき本当にありがとうございました。皆さんのおかげで、とても有意義な時間を過ごすことができました。本当に感謝、感謝です。

また皆さんとともに歩んでいけるように頑張ろうと思います。ありがとうございました。

○ 今回の合宿ではお世話になりほんとうにありがとうございました。私の悩みに向き合ってください、感謝しています。他校の英語の先生方と一緒に、楽しいひと時を持つことができました。英語の先生と話すことがこんなに楽しいとは知りませんでした。今やっている授業の問題点ははっきりしましたし、立ち向かう勇気が出ました。

○ 中西先生はじめ、幹事の先生、そして遠くからおいでいただきました。中井先生はじめ、多くの先生・学生の皆様、ありがとうございました!皆様からエネルギーを分けていただきました。1人でも多くの生徒が英語に対して心を開いてくれるよう、頑張ります。「創造的



実行力！生徒たちのために！」乾杯！

○【Yes, we can! ~英語の教え方合宿 in 近江八幡~】

盛り上がり、勉強し、体を動かすと、充実の2日間でした。週末（土曜）は「英語の教え方合宿」を近江八幡市内の「グリーンホテルYes 近江八幡」で開催しました。近畿二府四県と三重県から、約30名の英語の先生方、英語教員を目指す大学4回生の皆さんに参加いただきました。

そして今日は、宿泊組の8名が、八幡山に登ったり、八幡堀周辺の、左義長祭りで有名な日牟礼八幡宮や白雲館を見学したりといひ汗を流しました。

主幹の中井先生、大阪女学院大学教員養成センターの方々、発表の松川先生、幹事の二森先生・戸田先生・学生の皆さんをはじめ、貴重な意見を出してくださったりユニークな資料をおもいただいた先生方、本当にありがとうございました。府県を越えて、交流しあえた今回の会、いい刺激になりましたね。また、開催できるといいですね。

○あっという間に一週間が過ぎてしまいました。

中井先生のFBやMLの文章を読ませていただくたびに、先生の知識の広さと、豊かな文章力と教育に対する情熱に感動しています。お話を聞く度に、もっと聞きたいという気持ちになります。今回で教え方教室には2度の参加になりますが、すでに中井ファンです。これからも日程の許す限り、1回でも多く勉強会に参加させていただきたいと思っています。

さて、今回の合宿ですが、中西先生から声をかけていただくまでは、座っている気満々でしたが、いざ報告となると何を話してよいものやらずいぶんと悩みました。というのも、日々必死に教壇に立っているものの、確固たる理論に裏打ちされた授業方針があるわけでもなく、悩みながら、迷いながらの毎日だったからです。

ぎりぎりまで悩み、最終的にレジメを仕上げたのは当日の早朝でした。これまでやってきたこと、今取り組み始めたこと。皆さんにありのままを聞いていただいて、アドバイスをいただけたらと思って資料を作りました。

拙い発表を聞いてくださった参加者の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。特に中学校勤務時代の話は、自分自身にとっても一区切りをつける良い振り返りの機会となりました。

話しながら、当時の自分の奮闘ぶり、生徒たちの顔・・・いろいろな記憶がよみがえりました。何とか発表を終えて、いただいた「パワーを感じました。」という言葉。一番うれしい言葉でした。失敗もたくさんあったけれど、自分の進んできた道は決して無駄ではなかったのだと思うことができました。

これからは、中学校での経験を活かしながら、また、高校の現場で奮闘を続けていきたいと思えます。

ついつい毎日の教材作りに追われて、3年後の目標を見失いがちですが、やはり、中井先生が教えてくださったように、何を教えたいのか、どう育てたいのかを常に問いながら授業を考えていかなければならないと改めて強く思いました。

生徒が作る部分、プリントの空白部分を作り、そこに生徒たちが自分たちの考えを書きたいと思えるような授業づくりを目指してみます。まだまだ、高校での実践は始まったばかりです。今回は食事までの参加だったので、思うように意見交換の時間を持てませんでした。次回、改めて先生方と日々の取り組みの情報交換をさせていただけたらと思います。そして、これは強く強く願っていることですが、中井先生の講演の残り半分の部分を是非聞きたいです！！

英語教育にかける熱い思いが繋ぐこの縁、これからも大切にしていきたいです。いろいろと本当にありがとうございました。

来年度、明日香村での合宿・・・、ぜひいらしてください！！



■ 合宿スナップ写真



## 今後の勉強会予定

### 第23回「英語の教え方教室」勉強会 案内

2013(平成25)年6月29日(土) 14:00～17:00

大阪女学院大学 教員養成センター

「活用型学力を育てる授業をめざして—実践活動紹介—」

兵庫県立尼崎小田高等学校 二森 正人 教諭

英語の授業では、リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能の運用能力をつけることはもちろん大切である。しかしながら、ただスキルとして捉えるだけでなく、思考力・判断力・表現力を伴う英語力の育成が学習指導要領においても強く求められている。英語を通して、文章の内容を深く理解することで思考力をつけたり、文章に関連した内容をさらに調べて発表したり、英語表現が使われる正しい場面を判断できるようになったりすること



など、思考力・判断力・表現力をつけさせるには、タスクやプロジェクト活動を行う活用型の授業が必要であると二森先生は考えた。自分で発見した課題や与えられた課題の一番大切なことを見抜いて、その重要ポイントを整理し判断し、自ら工夫した表現活動を行う活用型の授業を目指した実践を行って、生徒が自分で理解し、発信していく力を身につけさせようと考えられた。

学習形態においても、ペアワークが有効と思われる場面では、日常的に実践する。学びの原則の一つの要素には、「協力できるとよく学べる」ことが挙げられる。「今日、何人かでできたことは、明日は一人でできる」ので、考える過程などを共有し、徐々に一人で取り組めるように指導されてきた。

本学機関誌『OJU 教職活動報告・研究 Vol.3』に投稿していただいた実践記録の数々の活動について、配付資料などを合わせ具体的にお願いいただくことをもとに、「活用型学力を育てる授業」はどうあるべきか、どのように工夫すべきかを参加者で話し合う。これからの教育に求められることを共に考えませんか。

### 第24回「英語の教え方教室」勉強会 案内

2013(平成25)年7月13日(土) 14:00～17:00

大阪女学院大学 教員養成センター

「創造力を育てる授業をめざして—実践活動紹介—」

滋賀県湖南市立石部中学校 山口 朋久 教諭



山口朋久先生は、一風変わった経歴を持つ滋賀県の中学校のベテラン教員である。最近の傾向として研究会などに自主的・積極的に参加する教員が少なくなっているようであるが、山口先生は、その傾向を打ち破るかのように「いっぴくカフェ」という英語教員有志の集いを県内中学校・高校の先生らと企画・運営されている。さながら、幕末の頃に日本の夜明けをめざし熱い気持ちで奮闘した志士のように、中学校・高校の英語教育の発展を考える「師志の会」を結成されている。

さて、今回は山口先生に「ペアやグループ学習を中心とした共同学習」、「既習表現を使った創造的なプラス1センテンスの英文づくり」、「身の回りの表現を使った話す活動」の三本立てでお話いただきます。共同学習 (group learning) は、「協働学習 collaborative learning」「協調学習 cooperative learning」とも言われたりする。新しい時代の創造的なスキルを育成するために有効な学習方法であり、スモール・グループで相互に協力し合いながら、共有する目標の達成をめざす学習で互恵的な相互依存関係がポイントである。プラス1センテンスも、ターゲットの例文などだけではなく自分バージョンの例文などを創作するな

ど行えば、創造的な活動のステップとなる。また、身の回りの身近なことを表現することは、話し言葉としての生の英語の表現であり英語で表現する楽しみをもたらしてくれる。山口先生のこれらの実践活動の紹介を通して、何が大切なことか皆で話し合ひましょう。新しい夜明けが待っているぜよ。

## 大阪女学院大学「教員免許状更新講習1」平成25年度講習

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計30名

### ■講習1 平成25年8月5日(月) 9:10～16:40

「思考力・判断力・表現力」の育成をめざす指導

- ・国際社会を読み解く英語力 —異文化理解の視点から時事素材を教材として—

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

- ・思考力を高める英語授業 —様々な thinking skills を取り入れて—

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【国際社会を読み解く英語力】グローバル化の進む国際社会で通用する「思考力・判断力」を養うためには、自文化の価値判断や思考回路から脱却した異文化理解の視点が必要であることを、時事英語素材を使って演習する。【思考力を高める英語授業】「思考力・判断力・表現力」を育成する指導の構成要素は何か、その key competencies とは何かを探りながら、critical thinking をはじめ様々な thinking skills や PBL などを用いた実際の教材展開例を考える。

### ■受講申し込み受付

平成25年4月11日(木)より7月19日(金)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。(申込方法) 教員養成センターメールアドレス (ttc@wilmina.ac.jp) 宛に、1) お名前(漢字・ふりがな) 2) メールアドレス 3) ご連絡先電話番号 4) ご勤務先・所属等 5) 希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

- 受講料 5,000円 (所定の口座へ振り込み)

### ■授業デザインスキルアップ演習 現職教員支援無料講習

平成25年8月8日(火) 10:00～16:30

「生き生きとした英語表現活動」

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

- ・英語表現活動探究(1) 発音・音読による表現
- ・英語表現活動探究(2) 日英感覚の違いから起こる英語表現の違い
- ・英語表現活動探究(3) 英語表現の味わい: 短歌・俳句・詩を表現する英語、英語による Creative Message
- ・英語表現活動探究(4) 英語表現創作活動: 写真に添える言葉・絵本翻訳・英語ポスター・しおり

#### 参加申し込み

6月末までに中井宛(nakai@wilmina.ac.jp)へ参加希望を、学校名、教職歴(年数)、お名前、連絡先(PCアドレス)を添えてご連絡ください。

\* 昨年の実施報告は

[http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/bulletin/vol3\\_pdf/1-2.pdf](http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/bulletin/vol3_pdf/1-2.pdf)

[http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/course/pdf/skill\\_up.pdf](http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/course/pdf/skill_up.pdf)



### 編集後記

運営の幹事の先生のご苦勞に少しでも報いたいと考え、勉強会「英語の教え方教室」合宿 in 近江八幡の報告として臨時増刊号を発行することとした。実に楽しい合宿であった。本号は合宿終了後の4日間ほどで編集したので内容として不十分・不備なこともあると思うが、PDF版としてご一読いただければ幸いである。(な)

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学  
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: [ttc@wilmina.ac.jp](mailto:ttc@wilmina.ac.jp)